

SHASHI



The Journal of Japanese Business and Company History

Vol. 4, No. 1 (2016) ■ ISSN 2169-0820 (Online) ■ DOI 10.5195/shashi.2016.34 ■ <http://shashi.pitt.edu>

Article title: 如何に貿易を経営すべき乎
 Author: Iida, Kiro飯田旗郎
 Journal Title: Kokumin no tomo 国民之友
 Publisher: Minyusha 民友社
 Year: 1895
 Month: 10
 Issue: 246
 Page: 21-27

天の吾人に頭脳精神を有せしめたるは何が故乎、万物の霊となりて万物の統治を計り、其改良幸福を得せしめんが爲なり、天の吾人に耳目鼻口を与へたるは何が故乎、吾人に外界を知らしめ、茲に立つの計を爲さしめんが爲なり、天の吾人に手足を附したるは何が故乎、此世に立ちて自営他営の途を得さしめ、以て其恵を完ふせんが爲なり、人は芋虫に非ず、天の此大恩恵に對して酬ゆるの自然的義務を有す。

故に吾人は盛んに吾人の頭脳精神を働かしめざるへからず、盛んに耳目鼻口を用ひざるべからず、盛んに手足を働かさざるへからざるなり、而して決して他物他人に支配さるべからず、所謂不具者に非ざるよりは、獨立獨行自ら此世に處するを要す。

かるが故に、人間一の事業を爲すに躬自ら之を爲すを以て正道とす、人の爲す事吾れ之を爲し得ざる事なく、若し之を爲し得ざるは、則ち己れの不具者たるか又は頭腦の劣れるものたる事を表證するに止まるものゝみ、止を得ずと云はゞ、止を得ざるに相違なけん。

事を行ふに其人躬自ら之を爲すは獨り人間の正道なるのみならず、利益の上に於て著しき相違あるを見るべし、今之を人に依頼するとせん乎、頭を低ふし禮を厚ふし、尚且つ之に對して無形有形相當の報酬をなさざるべからず、即ち此報酬丈は自己に取りて全く損失となるものにして、事を成し終わるに就いて夫れ丈け失ふたるものなり。

生産者又は商人が、其生産物又は商品を賣上げんとするに於て、之を務むるに、躬自らするより善きはなし、生産者商人の直接に目的とするところは單に金錢實物上の利益のみ、若し其實捌方を他人に依頼せん乎、我は之に對して相等の手數料を支拂はざるべからずして、其額丈は即ち收得すべき利益より削減せらるゝものなり。

外國貿易、即ち我が生産品を國外人に賣込み、又國外人より我が要する物品を買入るゝに方つて、之を自らすることの利益なるは亦喋々を要せざるところにして、前條二箇の場合に於けると其理全く等しとす。

果たして然らば、外國貿易に直輸出直輸入の利を説くまでもなく、内地坐賣の損失を喋々するまでもなく、而して又實際に内地坐貿易の行はるゝ理由無かるべき筈なり。

然るに、今日吾邦の有様は全く之に反對なるは如何、此賭易きの道理に従はざるは如何、文明に通じて茲に二十八才の年頃に及びたるに、何とて獨り外國貿易に對してはウブなるや。

讀者よ、余が本論は之が爲なり。余は之に就て觀察を下さんとす、請う余が説を聽け

上に上あり下に下あるは此世の實況、例令ば幹に幹あり枝に枝あるが如し、正道一概に説くべからず、邪道必ずしも邪道に非ず、時と場合に由りて手段を用ゆるを要す、況や人間、一利一害は數の免れざるところなるおや、今夫れ外國貿易、直輸出入の利益ありて内地坐賣の損失あるべき内地坐貿易にも亦大に考慮すべき利點あるを見るなり、抑も如何なる點が其考慮するに足るべき利點なるや、請ふ左に列挙するところを見よ

- (一) 坐貿易は、吾が土地に坐して吾れの商品を賣り又彼の商品を買ふに在れば、賣るに就いては物品を外地に輸送するに就ての海陸上の危険を免かるゝを得べく、運送の途中物品の變化を恐るゝに及ばざるべく、又物品が先方に到着して代金支拂に至るまで土地を隔てゝ総ての、寧ろ空想的の心配を省くを得べく、買ふに就ては、前上の場合と反互に安心して取引し得べし
- (二) 坐貿易は大なる費用と大なる危険とを以て、故國親族を棄てゝ遠く異域に出稼するに及ばず
- (三) 坐貿易は外國賣捌地に人を派出し代理人を依頼し出張店を置き支店を置く等の事なきを以て、是等に関する諸費用（給與其他商業資本）を節約することを得
- (四) 一步海内を出づれば、凡て不案内なる外國に服従せざるべからざるに、内地坐貿易は是の如き煩累を免かるべし
- (五) 外國直接貿易取引上譬へ代金不支拂等の事なしとするも、荷爲換を取組むの爲に其の打歩を損し、又は其長期拂手形なるより割引の利子を損するを免かれず、内地坐賣は直接金品の受授あれば是等の損失を輕減し得べし

右に掲げたるところは即ち一般の場合に於いて内地坐貿易の利益とする要點なり、然るに今又、其國の天然上の位置と及び其商業并に信用進歩程度の如何に由つて、坐貿易は尚大に利益とせられて全く直接貿易に優るとせらるゝ事あり、則ち吾が帝國現在に於けるが如きは其適例とす、第一に、天然上の位置より觀察せる貿易二法の便否如何、試に之を左に列挙すれば

- 第一 吾が帝國は絶東(フハア、イースト)と世界人士に呼はるゝ丈け、世界の諸邦國に隔たること甚だしく、殊に生産品の最大購賣者たる文明人種は地球の正反對側面に位するほど夫れ丈隔絶せる事。

第二 陸地相接して外國と境を交ゆるときは、人爲の交通も自ら頻繁なるものなれども、一島國とありては、所謂海外の事物に手出しすること容易にあらず、目前の必要に迫らざれば、まず座して事業を営むは人情普通なり。

第三 吾が國人種は世界に人口甚だ少なき人種にして、尚ほ且つ世界に知られざる人種なり、世界の多數より知られざれば、取りも直さず一劣等人種と見做されつゝあるものなり、知れず知られざれば信用なく、對等の振合を以て海外貿易を営むこと困難且不愉快なるが故に、遂に内地に坐して顧客を待つに至る

（日清戦争の結果は吾人種を世界に知らしめ信用を博さしめ對等の權利を得せしめたるは事實にして外國貿易上最大の便利を得たるものなり）

第四 人種の相違と共に言語亦相違す、凡そ商業は賣者と買者と交渉一致相俟つて始めて成立つものなり、然るに今言語を異にすれば第一に賣買兩者相結ぶの便を欠く、今之を學ふとせん乎、一の言語を習得するには少なくとも年餘を要す、殊に世務に従事しつゝある壮年以上の人には學習甚だ困難なり。

日本語は世界十數億萬の人口中僅かに日本帝國々民四千餘萬人の理解し使用するところにして、一步海外に出づれば又其用をなさず、故に少しく海外に關する事に従事せんとせば直ちに其海外の言語を習はざるべからずして甚だ困難なる事なり

第五 我が帝國は世界に並ひなき山紫水明の樂土にして、季候温和、土地亦豊饒なり、故に住民は饑餓に迫るが如き窮迫の場合に立至らざれば、之を見捨てゝ外に出つるを好くせず、吾國は規則正しき四季の季節を有し、東西南北凡そ百の物産に欠くところなし

第六 氣候土地此の如くなるを以て、人民の性質優雅溫柔、冒險を好まず投機を喜ばず、眞正なる心の愉快を得るを以て目的とするものたるが故に、危険を冒して敢えて異域に出稼をなさず

第七 或る論者は日本の人口多きに過ぎ此分にては數年を待すして過剰を憂ふるに至るべしと云ふものありと雖も、余は反つて日本の人口は未だ不足なるを思ふ、看ずや北海道を、其土地は甚だ肥沃なるに似ず未だ往いて耕やされざるに非ずや、看ずや本州を、茲に生息する人民は饑餓を訴へざるに非ずや、綽々として餘裕あるに非ずや、賃銀は日に増騰するに非ずや、吾人は新たに大臺灣を得たるに非ずや、新臺灣に要する同胞人幾千ぞ、夫れ此の如くなるか故に、外國殖民は割合に擧がらず、外國貿易亦擴張せられず、人民多く内に屏息して安ずるばかりなり

第二に、商業并に信用の進歩程度より觀察すれば

第八 吾國は元來鎖國の境涯に在りて他國を知らず、海外の事悉皆闇の裡に在りて容易に手を下す能はず

第九 國を開いて諸種の事業勃興し、尚爲すべきの事業國內に甚だ多くして、殊更に海外の事業に手出しするを要せざるに、今又臺灣の如き豊大島を合領して商工事業新計畫の多々を要するに際す

第一〇 吾國元來商を卑むの風あり、今日は四民同等の勢力を保有するのみか時としては商反つて其第一位を占むるが如き形迹ありと雖も、人心の根底未だ卑商主義を脱せず、政治に輿論に商業を輕視するの傾を免かれず、外國貿易の如き直接に其風潮を受く

第一一 吾邦諸種の事業發達新らしくして商業の如きは最も然るもの、而して其方法亦外國のものとなり、故に外國商業と同一の振合を以て混同して盛んに取引するを得ず

第一二 況や社會の程度非常に相違し、物價は彼れ我れに數倍し、金利は其正反對に我れに一二倍低きに於いてや

第一三 尚ほ且つ金融の機關充分外國貿易上に其効用を及ぼす能はざるに、加ふるに

第一四 航通の便十分ならざるものあり、固より航海業の如き追年著しく進運の有様なれども、島國なる大日本帝國の海運業としては、前途甚だ遼遠なるを免かれざるべし

上來說き來りたる種々の理由は即ち内地坐貿易の利益とせらるゝところ及び直貿易を營むる能はざる所以にして、殊に殊別の國勢に在る吾が帝國商工業家が外國貿易に多く坐主義を採り又採るべくせられたる所以なり、即ち右に由りて之を視れば、吾國商工業家が此の如くに内地主義を取るべく餘義なくせられたるは實に餘義なくせられたるにて、世人の一概に之を攻むる能はざるは勿論、世人は彼等とともに眞貿易の方法を考究して、以て帝國の商運を發揚せざるべからざるなり。

況や之を外國の例に徴するに、皆敢て直輸貿易を營むと定まりたるものに非ざるおや。

視よや佛國を、佛國は今日世界に於て最も富強なる國民なり、其佛國民の商業貿易は如何、佛國民は甚だ商売下手なる國民に非ずや、佛國以外世界の各市場に商人として居留せる佛人は甚だ僅少なるに非ずや、彼が決死猛進して奮畧したる大版圖大領土も、其實利実益は時に他の友邦國民に占領せらるゝに非ずや。

然れども、彼は流石に中心文明に坐せる民なり、彼は此の如くに一方に於て甚だ拙なる間に、一方其の内國に於て甚だ巧に商工の利を収めり、彼は他の模倣し能を吸収せり、彼は自國の好季候好風物及生活機關の愉快を利用して世界の人士を引込めり、彼は博覽會を開ひて國外人より巨億の富を蒐めり、彼は世辭に富み、小商賈に富み、買者の其店頭に来る時之を捉らへて商賈するに巧みなり、此点恰も東京商人に似たるに非ずや。

此の如くに佛國は内地坐貿易に由つて重に其富を成せるものにして、季侯并に國民の氣象等に於て甚だたる吾が國民に在つては、大に参考となすものを覺えるゆるなり。

余は今又、大陸に對し島國として立つ點に於いて吾國に似たる英國を見んとす、英國は商業國たりと云ふ事に就ては何人も反言するものなかるべし、只、其貿易主義は直輸入を主とする乎又は坐貿易を主とする乎と云はゞ、英國人は全く直輸貿易に在りと答へんのみ、由來英國人は

冒險敢爲の氣象に富める人民なり、實利を主とする人民なり、世界を家とする人民なり、而して彼は緻密なる商業を營んで小利を希圖する小商業に拙なり、其代り彼は宏大なる工業を起し、纏めたる商業を營み以て大利を書策す。

以上、其國の國勢より、其國民の氣性より、直輸貿易坐貿易各々一利一害あるありて、敢て道理に於て利益あり損失ありと断言すべからざるや明けし。

國勢に由り氣性に由り國に由つて真坐貿易を異にすると等しく、一國內亦位置性質に由つて商業の模様を異にす、今大阪を見よ、京都を見よ、東京を見よ。

大阪、大阪は全く英くに似たるものなり、其人民の氣性英國人の如く實利に富み 冒險に富み、又敢爲なる氣象を有す、帝國內他地方に散在せる商人は大坂人最も多く、投機商業大坂に多く行はる、米相場の如き全國（東京も含む）大阪に基するを見ても知るべし、大阪人は愛想の少なき人民にして小賣商業は甚だ拙な利、其代り彼は宏大なる工業を起し、纏めたる商業を營み、以て大利を目的とす、去れば支那朝鮮と帝國と大阪人に多し、大阪人は直輸貿易を行ふに適し、能く大貿易人の性質を備ふ。

京都は如何、京都人民は實利主義には富めるが如きも亦極めて保守の人民たるを免かれず、而して一方に於ては佛國民の如く、其山紫水明季候物産及び歴史的娛樂的機關を利用して、座して利益を圖り、之を圖り得るものなり、本年に開設しありし博覽會紀念祭都踊に由つて京都は幾千の富を全國人の手より呼収したりしや。

儲吾が東京、東京は名にしおふ帝國の首府世界大都會の一なれば、商業取引は種々の形を以て行はるれども、概して之を見るときは、恰も佛國の商業に以て座賣たるを免かれざるべし、東京は元來政治上の原因より市を成したるもの、大阪の如く商業よりせるに非ず、東京人は金になるよりも巴里人の如く金を散する方なり、東京人は巴里人の如くに其市の華美及娛樂的機關等よりして他地方人士を引き以て散財せしむるものなり、彼は世辭に巧にして小賣商業に優れり、彼は浮薄ものにして其代り氣潑あり、彼は全く巴里人に類似す、彼は多くの勸工場に物品を陳列して以て顧客を待つ」三者の性質夫れ此の如し、之を要するに大阪人は真正貿易者の性質を備へて強堅なるものにして貿易に力をいたすべきもの、余は今後の商戦に於て大阪人は真先がけに名譽ある大勝利を得む事を信ずるものなり。直輸必らずしも必要ならず、坐貿易必らずしも悪しとせず、要は只利益便否の點のみ、況んや世は益々分業となりて事業悉く分小せらるゝに於ておや、欧米コムツションマアチヤント（仲買商人）あり、商業は多く此商人の手に依托せられて行はる、此仲買者は最も慣れたる其専門の事業を行ふ者、而して其依托擔當に對しては相當の手數料を求むるものなり、歐米の商業は之が爲に擴張し之が爲に隆盛を致す、人に依頼して利益ある場合には、敢て人種邦國の異同を問はずして可ならずや。

國に由り土地に由り、又國勢に由り氣性に由り、一利一害強ち直輸貿易を利とし内地貿易を損とする能はざれども、道理に於ては到底直輸貿易の利に及ぶものなきは余の本篇の始めに於いて確言したるが如く明けし、去れば吾人は其心を持ちて貿易に従事せざるべからず、交通機關の整頓するに従ひ、金融の便開くるに従ひ、土地言語の研究累なるに従ひ、商業社會及富の程度彼れと併馳するに従ひ、内地座貿易屏居主義は之を廢して、事業の正道に近づかざるべからず、獨立獨行事に従つて完全なる人間の義務を盡すべきなり、況んや条約改正は頻繁として

結約せられ、其實行はまさに數年の後に在らんとするに、自国需要供給の分配を一に外商に委して顧みざるが如きは国身上頗る危険たるを免かれずして、恰かも自ら求めて何時までも不具者たらむとするに人士、商業家たるもの豈夫れ鑑みざるべけんや。



New articles in this journal are licensed under a Creative Commons Attribution 3.0 United States License.



This journal is published by the University Library System, University of Pittsburgh as part of its D-Scribe Digital Publishing Program and is cosponsored by the University of Pittsburgh Press.